

桑子

原野

第3種郵便物認可

温州ミカン甘酸っぱ

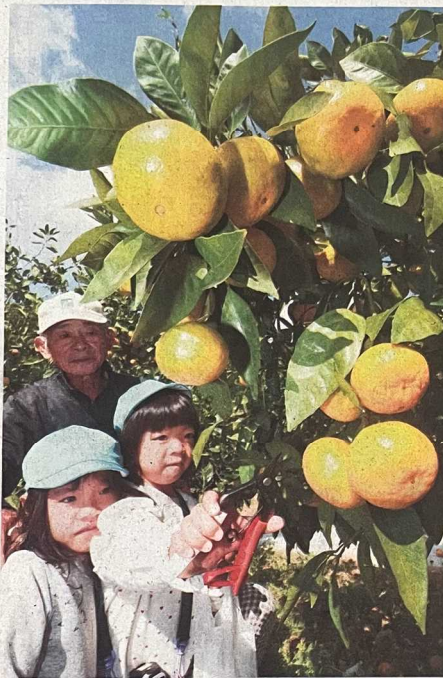
収穫最盛、園児ら体験笑顔

南さつま加世田

南さつま市で温州ミカンの収穫が最盛期を迎えている。地元の名産に親しんでもらおうと、各農園では収穫体験を通じ、甘くてみずみずしいミカンのPRや普及に力を入れている。

ミカンの里と呼ばれる同市加世田津貫地区。約50年前から生産する新澤清一郎さん(76)は収穫時期が異なる20以上の品種を約200畝で栽培する。担い手が減る中、津貫ミカンを守ろうと約10年前に新たに約50畝を開墾。新園が軌道に乗り

始めた記念に10月30日、地元の子どもの森保育園の園児14人を招いた。子どもたちは鮮やかな黄色のミカンに目を輝かせ収穫。その場で食べた室屋光花ちゃん(6)は「甘くておいしい」。新澤さんは「自分でとったミカンが一番うまい。子どもたちの笑顔が何よりうれしい」と喜んだ。同市の加世田常潤高校では生徒たちが約2畝で約450本を栽培する。農園は開放しており、お年寄りや園児らが次々訪れ収穫を楽しんでいる。今年11月末にかけ15団体を予定。1畝250円で販売する。10月31日には同市のグループホーム有馬館の入所者9人が来訪した。食農プロデュース科3年の菊永聖結



ミカンを収穫する園児

南さつま市加世田津貫



高校生のサポートで収穫する高齢者
＝南さつま市の加世田常潤高校

さんは「甘くてほじよい酸味がある。ワイワイ収穫を楽しんでほしい」と話した。
(犬塚政志)